

史跡・名勝 嵐山

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一二―一六

史跡・名勝 嵐山

2013年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

史跡・名勝 嵐山

2013年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様幅広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、駅構内リニューアル工事に伴う史跡・名勝 嵐山の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

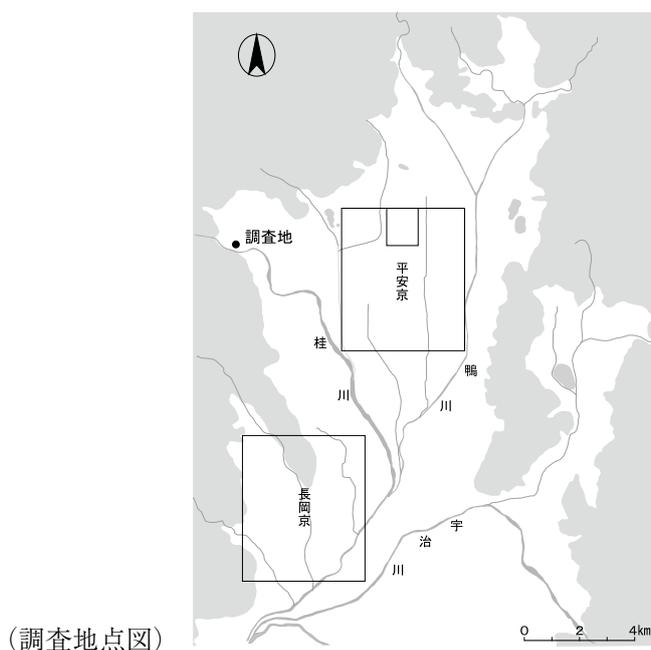
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成25年2月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|--------------------------------------------|
| 1 遺 跡 名 | 史跡・名勝 嵐山 |
| 2 調査所在地 | 京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 地内 |
| 3 委 託 者 | 平安建設工業株式会社 代表取締役社長 井上準二 |
| 4 調査期間 | 2012年12月25日～2013年1月21日 |
| 5 調査面積 | 43.5㎡ |
| 6 調査担当者 | 尾藤德行 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「大覚寺」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 尾藤德行 |
| 14 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、資料業務職員および調査業務職員があたった。 |



(調査地点図)

目 次

| | |
|--------------|----|
| 1. 調査経過 | 1 |
| 2. 調査地の位置と環境 | 3 |
| (1) 遺跡の環境 | 3 |
| (2) 周辺の調査 | 3 |
| 3. 遺 構 | 6 |
| (1) 基本層序 | 6 |
| (2) 遺構の概要 | 7 |
| 4. 遺 物 | 8 |
| (1) 遺物の概要 | 8 |
| (2) 出土遺物 | 9 |
| 5. ま と め | 11 |

図 版 目 次

| | | | |
|-----|----|---|-----------------|
| 図版1 | 遺構 | 1 | 調査区全景（西から） |
| | | 2 | 溝1断割り状況（南東から） |
| 図版2 | 遺構 | 1 | 溝1B護岸石積み（東から） |
| | | 2 | 溝1B護岸石積み上面（南から） |
| | | 3 | 溝1養生状況（南東から） |
| 図版3 | 遺物 | | 出土遺物 |

挿 図 目 次

| | | |
|----|------------------|---|
| 図1 | 調査位置図（1：2,500） | 1 |
| 図2 | 調査区配置図（1：500） | 2 |
| 図3 | 調査前全景（西から） | 3 |
| 図4 | 作業風景（西から） | 3 |
| 図5 | 周辺調査位置図（1：2,500） | 4 |

| | | |
|-----|---------------------|----|
| 図6 | 調査区断面図（1：50） | 6 |
| 図7 | 調査区平面図（1：50） | 7 |
| 図8 | 溝1西肩口護岸石積み立面図（1：50） | 8 |
| 図9 | 出土土器拓影・実測図（1：4） | 9 |
| 図10 | 出土瓦拓影・実測図（1：4） | 10 |
| 図11 | 「山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷地指図」 | 11 |
| 図12 | 「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」 | 12 |

表 目 次

| | | |
|----|---------|---|
| 表1 | 周辺調査一覧表 | 5 |
| 表2 | 遺構概要表 | 8 |
| 表3 | 遺物概要表 | 9 |

史跡・名勝 嵐山

1. 調査経過

調査地は、京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町に所在し、史跡・名勝嵐山指定地内に位置する。調査は京福電気鉄道株式会社の嵐山駅構内リニューアル工事に伴って実施した。2012年3月に実施した1次調査に引き続き、今回は駅西側の店舗改築に伴い、2012年12月25日から2013年1月21日まで実施した。調査は、京都府教育庁指導部文化財保護課・京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「府・市文化財保護課」という。）の指導の下、財団法人京都市埋蔵文化財研究所が実施した。調査地は、府道29号線宇多野嵐山山田線を挟んだ天龍寺の南東側、臨川寺の北西部に位置し、それら関連遺構の検出が予測された。

調査区は南北約6.5m、東西約6.7mの方形で、調査前に店舗旧基礎と旧床面のコンクリートを撤去済みであった。調査は、委託者である平安建設工業株式会社の重機によって近・現代の地層を除去・搬出し、その後、人力によって遺構検出を行った。その結果、地表下約0.3mで江戸時代の遺

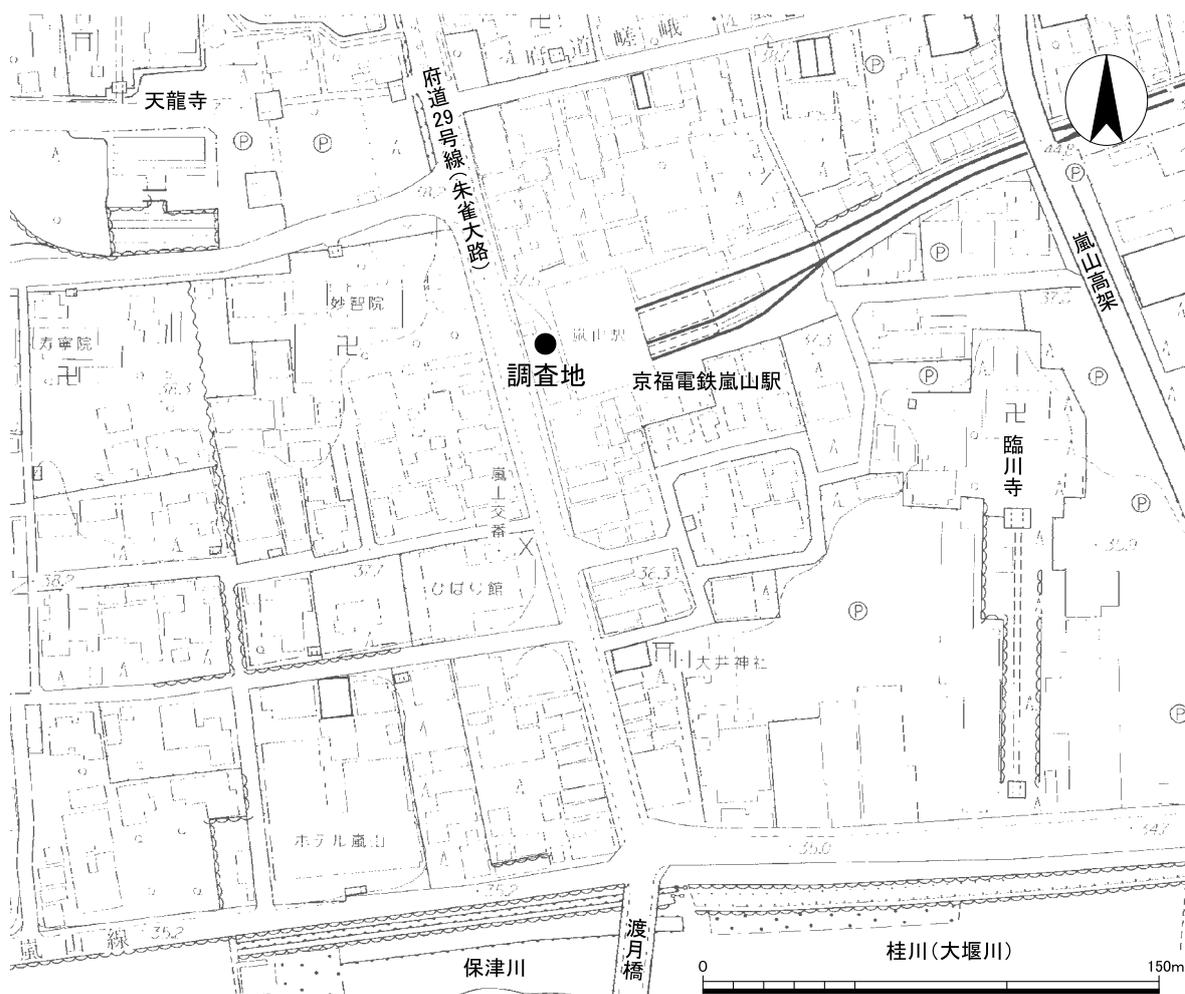


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

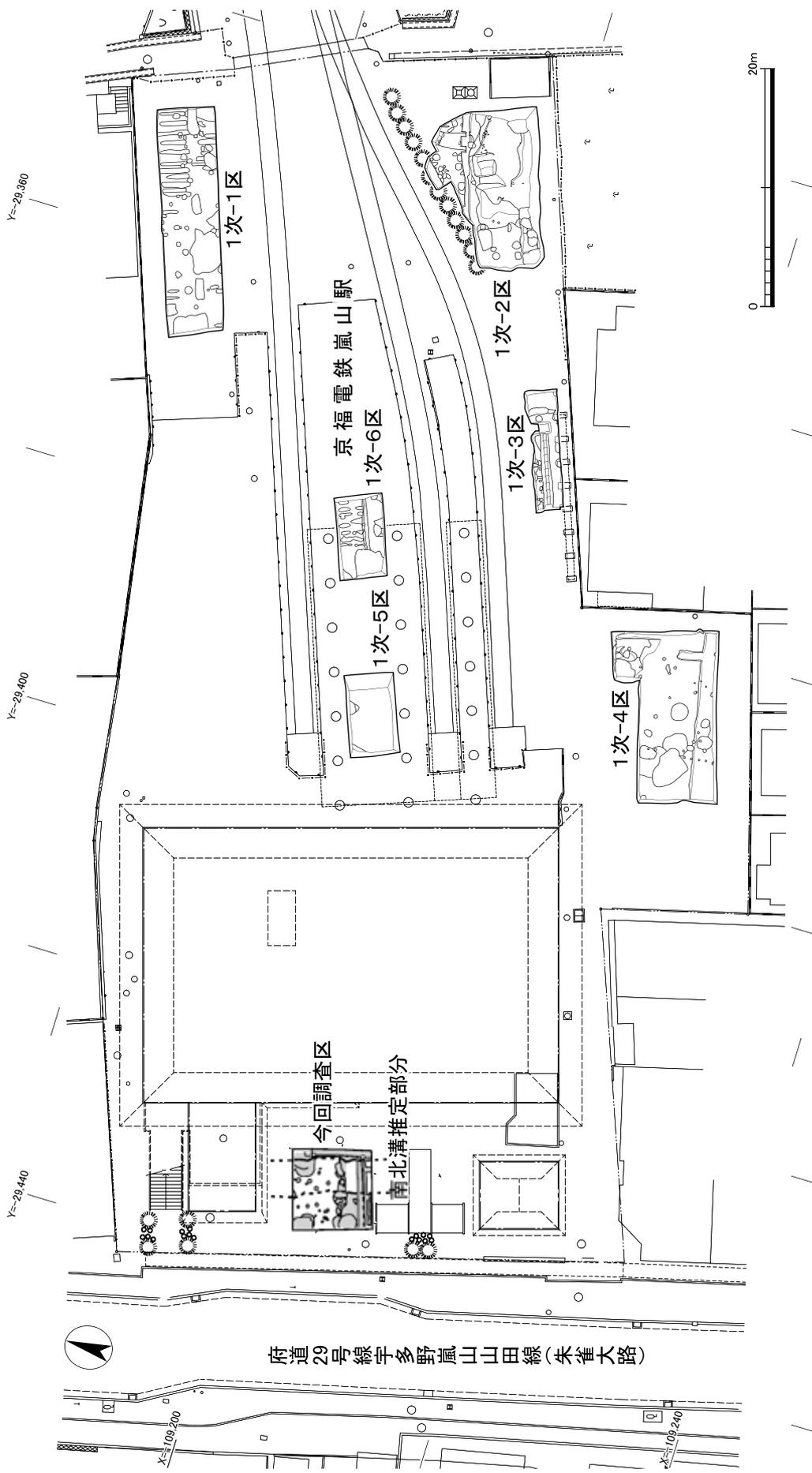


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 調査前全景（西から）



図4 作業風景（西から）

物包含層を検出し、地表下0.4～0.5 mで室町時代の南北溝を検出した。

この段階で今後の調査の進め方や遺構保存の協議のため、府・市文化財保護課の臨検を受け、委託者へ遺構保存のための設計変更の指導がなされた。設計変更後、府・市文化財保護課の指導により、江戸時代の遺物包含層を掘り下げ、溝の規模・構造・時期の確認のため、溝に断割りを入れた。その後、全景写真撮影、溝部分の写真撮影ののち、調査区平面図・断面図、溝断面図を作成し、溝の肩口などを土嚢で保護・養生（図版2-3）して終了した。

2. 調査地の位置と環境

(1) 遺跡の環境

調査地は、史跡・名勝 嵐山の範囲内に位置している。大堰川（桂川上流）が亀岡盆地から京都盆地北西に流れ込み、その氾濫のため扇状地状に南東方向に緩やかに傾斜する地形を形成する。当地周辺の地割が、北から西に約16度振れているのは、この自然地形によると言われている。

当地周辺の嵐山・嵯峨野一带は、縄文土器・弥生土器の出土が確認されており、古くから人々の生活の場であったことがわかる。古墳時代には多くの古墳が造られる。太秦付近を拠点とした秦氏が大堰川に「葛野大堰」を造り、周辺の土地開発を行ったとされる。平安時代には、皇族の狩猟地がおかれ、多くの別業・山荘が造られた。

鎌倉時代には、後嵯峨上皇が1255年（建長七年）に「亀山殿」を造営し発展した。「亀山殿」はその後、亀山天皇・上皇の御所として機能し、孫の後醍醐天皇に伝領された。その後、後醍醐天皇は河端殿の跡地に夢想国師を開山として「臨川寺」を建立し、足利尊氏によって亀山殿の跡地に後醍醐天皇の菩提を弔うための「天龍寺」が建立される。

(2) 周辺の調査（図5、表1）

今回の調査では中世の溝を検出した。同様に調査地周辺には中世の溝や堀を検出している地点が数箇所ある。

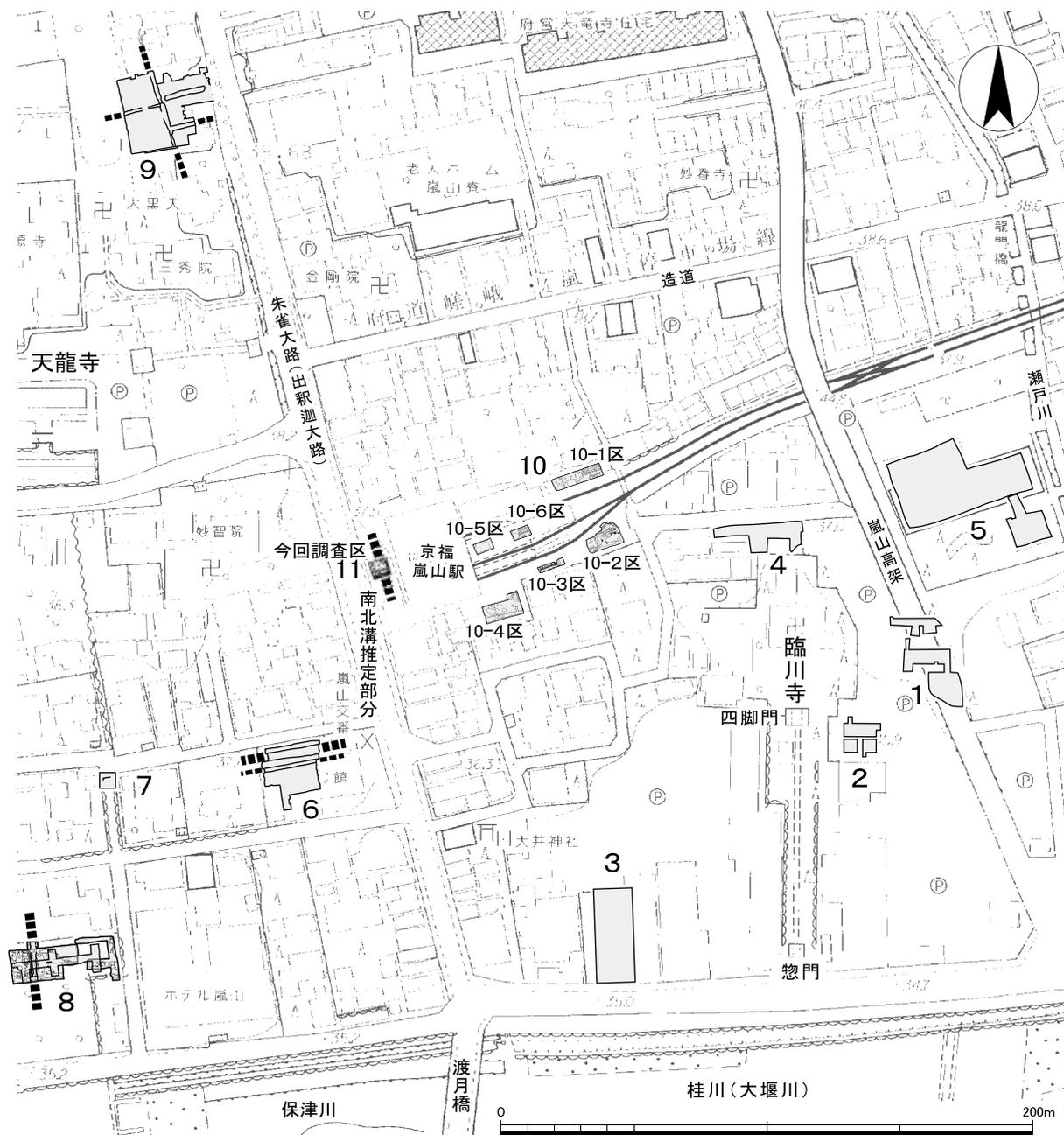


図5 周辺調査位置図（1：2500）

調査2では、室町時代前期のやや西に振れる幅約3m、深さ0.8mの南北溝と、その溝に繋がるほぼ正方位の東西溝を検出している。溝からは南北朝期頃の遺物が多量に出土している。

調査3では、臨川寺関係と考えられる室町時代の石組溝を4条検出している。

調査6では、室町時代の東西方向の大規模な堀を検出している。幅2.7～4.6m、深さ1.2m前後、断面は逆台形を呈する。

調査7では、現道路下0.7mで中世の東西溝を検出している。石組で、内幅0.4mを測る。

調査8では、室町時代の南北方向の石組堀を検出している。3時期に分けられ、幅1.5～2.7m、深さ0.5～1.3mある。

調査9では、室町時代の東西堀・南北堀を検出している。幅1.5～1.8m、深さ0.9～1.6m、断面

表1 周辺調査一覧表

| No. | 遺跡名 | 所在地(右京区) | 方法 | 調査期間 | 概要 | 文献 |
|-----|--------|-----------------------------|----|---------------------------|------------------------------------------------------|-----|
| 1 | 臨川寺跡 | 嵯峨天龍寺造路町 | 発掘 | 1969.11 | 庭園跡を検出。鎌倉時代～江戸時代の遺物。 | 1 |
| 2 | 臨川寺跡 | 嵯峨天龍寺造路町 | 発掘 | 1974.12 | 室町時代の溝・柱穴、軒瓦・瓦。 | 2 |
| 3 | 臨川寺跡 | 嵯峨天龍寺造路町 | 発掘 | 1975.12 | 平安時代後期のピット、土師器。室町時代の石組溝、天目椀・青磁・須恵器。 | 3 |
| 4 | 臨川寺跡 | 嵯峨天龍寺造路町 | 発掘 | 1976.09 | 焼け落ちた状態の建物を検出。室町時代の天目椀・染付・青磁・白磁・陶器・軒瓦・瓦。 | 3 |
| 5 | 臨川寺跡 | 嵯峨天龍寺造路町3-11 | 発掘 | 1977.02.01 ～04.08 | 室町時代・江戸時代の土坑・溝、土師器・陶器・軒瓦・瓦。 | 4 |
| 6 | 史跡名勝嵐山 | 嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3-25・27・41・50 | 発掘 | 1992.09.16 ～1993.02.16 | 平安時代の柱穴。鎌倉時代の堀。室町時代の堀・地業・竈状遺構・柱穴・土坑。江戸時代の溝・柱穴・土坑。 | 5 |
| 7 | 史跡名勝嵐山 | 嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3-33、42 | 発掘 | 2002.08.05 ～08.12 | 室町時代の石組溝、土師器・陶器・瓦類・石臼。 | 6 |
| 8 | 史跡名勝嵐山 | 嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 3-16他地内 | 発掘 | 2006.06.05 ～09.15 | 鎌倉時代の柱列。室町時代の石組堀・土坑。江戸時代の土坑・石室・石列など。 | 7 |
| 9 | 史跡名勝嵐山 | 嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 17、25-2、32-2 | 発掘 | 2011.09.05 ～2012.06.11 | 平安時代の溝・土坑。室町時代の堀・溝・堀・柱穴。桃山時代の井戸。江戸時代の池。土師器・緑釉陶器・軒平瓦。 | 8 |
| 10 | 史跡名勝嵐山 | 嵯峨天龍寺造路町 | 発掘 | 2012.03.14 ～04.16 | 平安時代前期の灰釉陶器・須恵器。中世の土坑、土師器・陶磁器・瓦など。江戸時代以降の土坑。 | 9 |
| 11 | 史跡名勝嵐山 | 嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 | 発掘 | 2012.12.25 ～2013.01.21 | 平安時代の土師器・須恵器・瓦。室町時代の溝、土師器・瓦器・陶磁器・瓦。江戸時代の陶器、瓦、鉄製品。 | 本報告 |

形はV字形を呈する。

文献(表1 周辺調査一覧表)

- 1 牛川善幸「臨川寺庭園の調査」『奈良国立文化財研究所年報1970』奈良国立文化財研究所 1970年
- 2 江谷 寛『臨川寺庭園遺跡発掘調査概要』臨川寺庭園遺跡発掘調査団 1975年
- 3 江谷 寛「臨川寺旧境内」『佛教芸術 115号』毎日新聞社 1977年
- 4 吉川義彦ほか『臨川寺旧境内発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第4冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1978年
- 5 久世康博「史跡名勝嵐山」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 6 菅田 薫・吉本健吾『史跡名勝嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2002-10 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- 7 小檜山一良『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-9 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 8 小松武彦『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-3 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年
- 9 東 洋一『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2012-1 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2012年

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図6)

層序は、近代盛土層下、地表下約0.3～0.4mで西半と東半で大きく異なる。

西半は江戸時代の遺物を含む第2層10YR4/3にぶい黄褐色泥砂（混礫φ1～5cm）が路面状に固く締まった整地層となる。第2層以下は掘り下げしていないが、攪乱坑の壁面観察から、地表下0.4～1.2m以下まで第18～24層10YR3/3～3/4褐色粘質砂泥などの整地層が続く。これらの整地層から室町時代の土器が出土した。

東半は第3層10YR4/4褐色砂泥（混礫φ1～3cm）が江戸時代の遺物包含層となる。それ以下は、地表下約0.4mで室町時代の南北溝の埋土となる。地表下約0.7m以下は、第25層10YR4/4～4/6褐色粘質砂泥の地山となる。

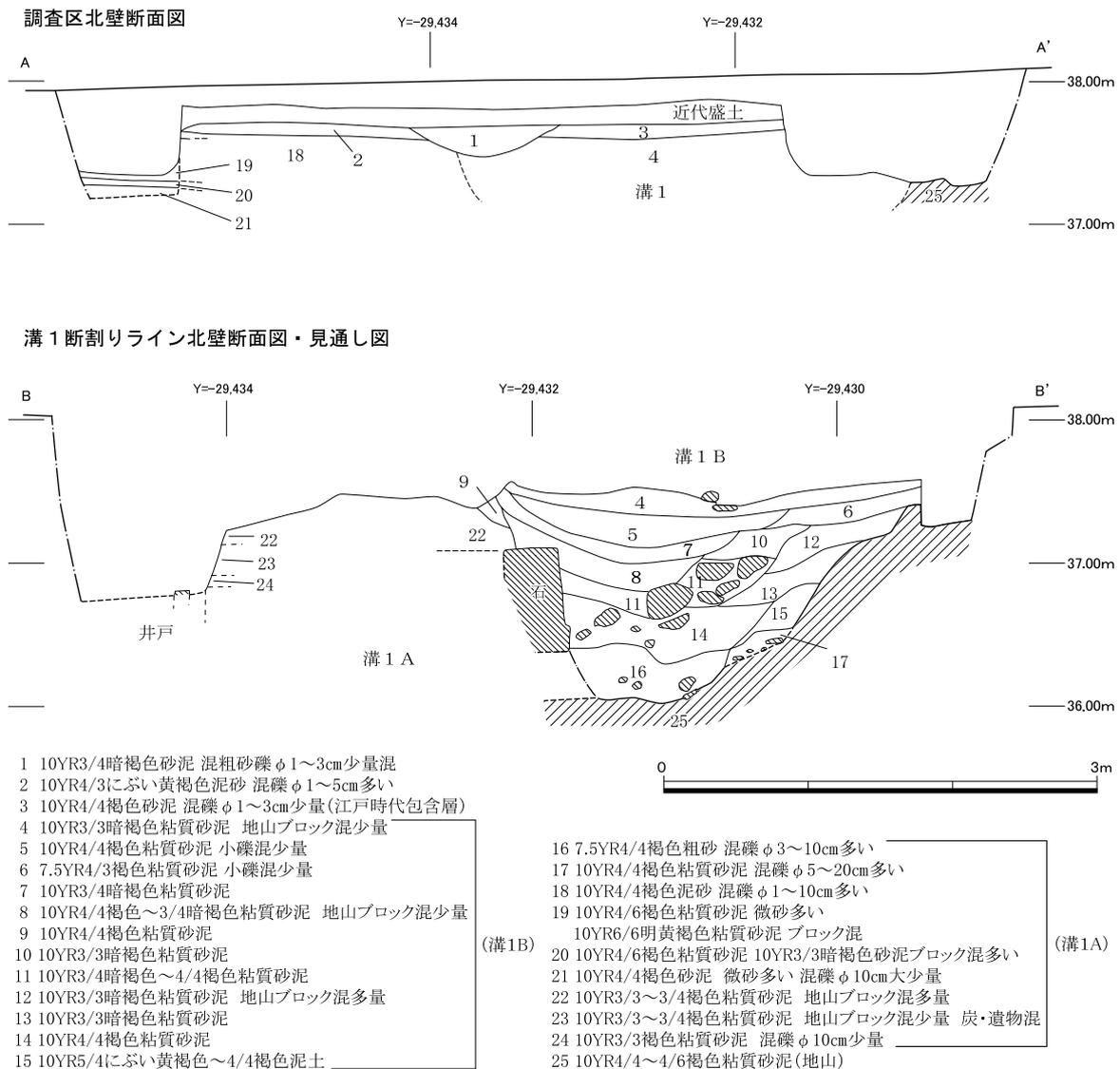


図6 調査区断面図 (1:50)

(2) 遺構の概要 (表2)

第2層および第3層上面で遺構検出を行った。前述のとおり、この面が江戸時代の遺構面を形成する。旧建物基礎や上下水道、電気などの埋設管および近代の小ピットなどによる攪乱が及んでいたが、調査区中央部では、遺構面がよく残っていた。調査区の西半は江戸時代の整地面が平坦に広がるのみであったが、東半は幅約3mある南北溝を検出した。これが溝1Bである。溝1Bの最上層は前述した第3層で、江戸時代の遺物を包含するものであった。しかし、調査区南半の攪乱壁面で溝の埋土を観察したところ、それより下位では室町時代の遺物を包含することを確認した。また、平面的な位置により、溝1Bは「朱雀大路」東側の側溝の可能性が指摘できた。溝1Bは地中に保存されることとなったが、溝の規模と時期を明確にする必要があり、南半の攪乱部分を利用し

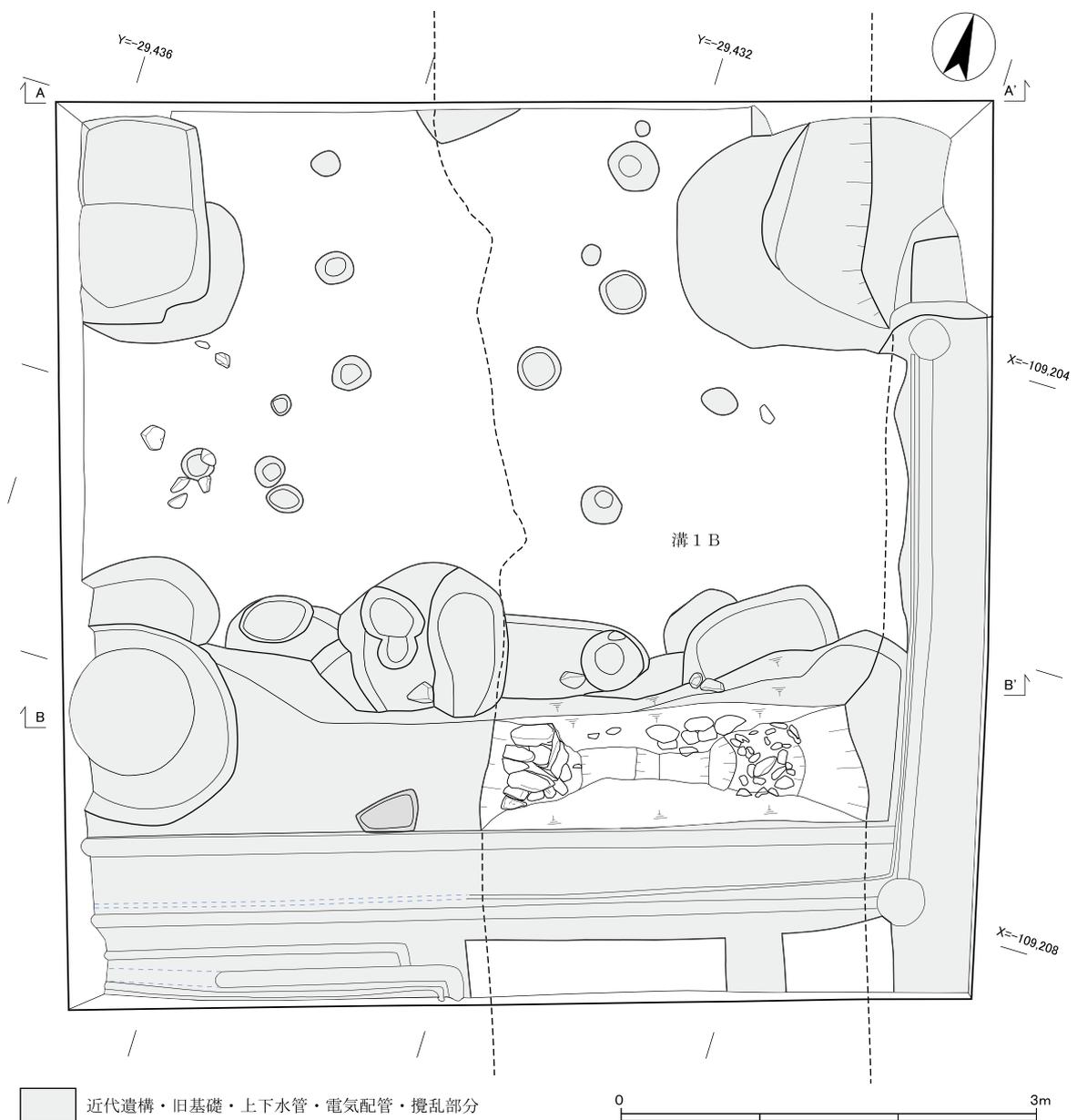


図7 調査区平面図 (1:50)

表2 遺構概要表

| 時代 | 遺構 | 備考 |
|------|----|----|
| 室町時代 | 溝1 | |

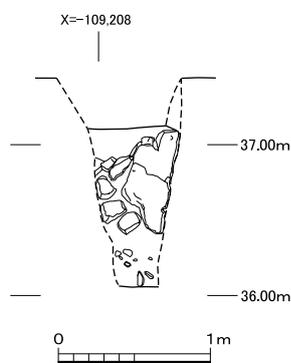


図8 溝1B西肩口護岸石積み立面図(1:50)

て断割り調査を行った。その結果、溝1Bに先行する溝1Aの存在を認識するに至った。

溝1B(図6～8、図版1・2) 調査区東側で検出した南北溝である。幅約3.0m、深さ約1.5mで、南北方向に約5m分を確認した。溝の東肩口は地山を削りこんで作られているが、西肩口は人為的な客土もしくは整地層によって形成されており、石積みで護岸されている。石積みの石材は大きなものは0.3×0.7mあるが、他のものは長軸長0.2～0.3mの小ぶりなものである。石材の長軸が溝と直角になるように小口積みされている。石積みに掘形はなく、後述する溝1Aを埋める作業と併

行して設置されたものであろう。埋土は、最下部に水成堆積はなく、全体が人為的に一時に埋められている。埋土から14～15世紀の土器類が出土した。

溝1A(図6～8、図版1・2) 溝1Bの断割りにより、最下部に褐色の粗砂層を確認した。この地層は、溝1B西側の護岸石積みの下に延びてゆくため、溝1Bの埋土ではなく、溝1Bに先行する古い溝の埋土であることが明らかである。これを溝1Aとする。前述のとおり、調査区西側では江戸時代の整地層である第2層の下位に室町時代の土器を包含する褐色の粘質土(22～24層)が堆積しているが、これらが溝1Aの埋土であろう。調査区西半の攪乱坑の壁面では地山(25層)が確認されておらず、溝1Aの西肩口は調査区西壁のさらに西側となる見込みである。東肩は溝1Bの東肩に踏襲されているので、溝1Aの幅は6mを超えるものとなろう。埋土から13～14世紀の土器類が出土した。

4. 遺物

(1) 遺物の概要(表3)

遺物は整理箱に1箱出土した。大半は土器類で、ほとんどの土器類は小・細片で磨滅が著しい。したがって、図示した土器の口径は復元できないものが多い。

平安時代の遺物には土師器皿、須恵器壺、丸瓦がある。室町時代の溝や江戸時代の遺物包含層に混入して出土した。

室町時代の遺物には、土師器皿、瓦器鉢、施釉陶器、輸入白磁・青磁、丸瓦がある。大部分は溝1から出土したもので、多くは小片で磨滅している。その他に少量の遺物が、江戸時代の遺物包含層に混入して出土している。

表3 遺物概要表

| 時代 | 内容 | コンテナ箱数 | Aランク点数 | Bランク箱数 | Cランク箱数 |
|------|--------------------|--------|-------------------------------|--------|--------|
| 平安時代 | 土師器、須恵器、瓦 | | | | |
| 室町時代 | 土師器、瓦器、施釉陶器、輸入磁器、瓦 | | 土師器7点、瓦器2点、施釉陶器1点、輸入白磁1点、丸瓦1点 | | |
| 江戸時代 | 施釉陶器、焼締陶器、染付、瓦、鉄製品 | | 焼締陶器1点、染付1点 | | |
| 合計 | | 2箱 | 14点(1箱) | 1箱 | 0箱 |

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

江戸時代の遺物には、第3層から出土した染付椀、焼締陶器播鉢、瓦、鉄製品などがある。細かく割れているものが多い。

(2) 出土遺物 (図9・10、図版3)

室町時代前半の遺物

溝1Aの第16層褐色粗砂礫層から出土した遺物(1~7)である。

土師器皿N(1~3)は、磨滅が激しく、ナデ調整がわずかに残る。小片のため口径は不明確であるが、約10~12cm。土師器皿N(4)は、口径8.5cm、器高1.3cmの小型の皿である。磨滅が激しい。土師器皿S(5)は、口径11.5cm、残存高2.7cmある。ナデ調整がわずかに残る。土師器皿N(6)は、口径12.0cm、器高2.1cmである。調整は、底部外面はオサエ、内面はナデ、口縁部の

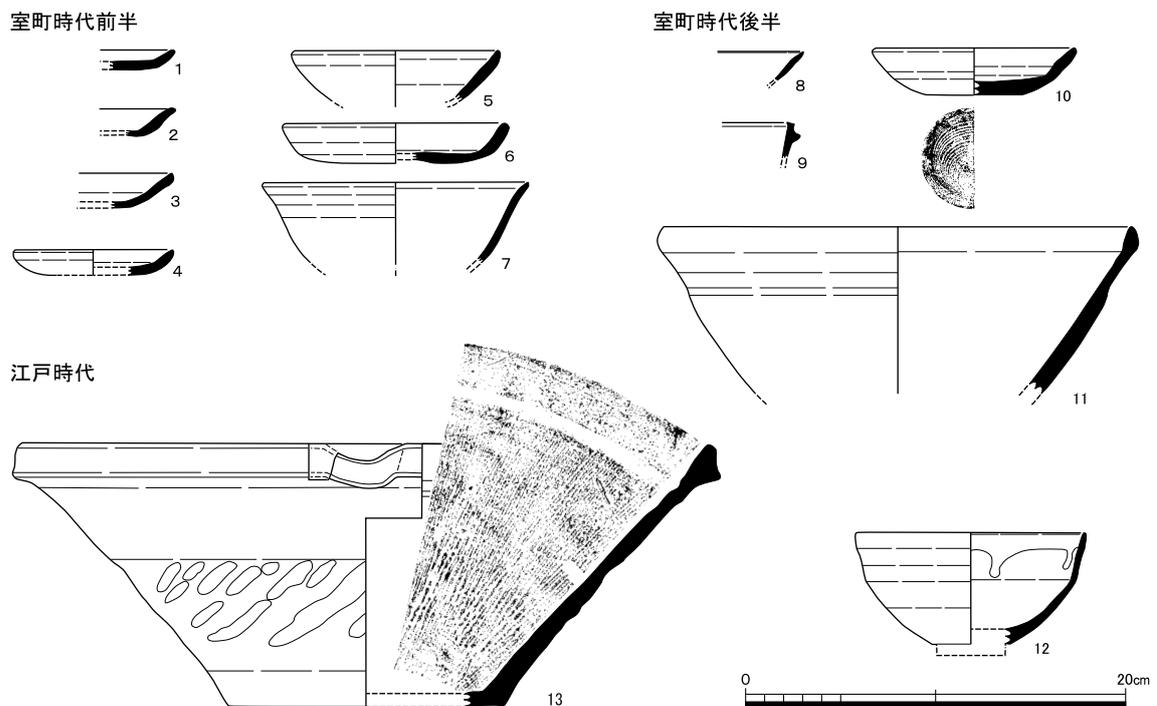


図9 出土土器拓影・実測図(1:4)

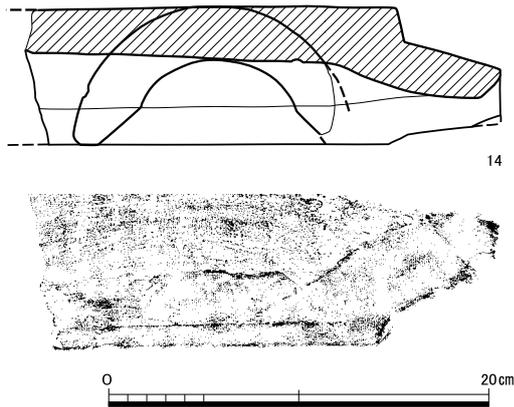


図10 出土瓦拓影・実測図（1：4）

内外面は横ナデである。溝底面から出土した。土師器皿（1～6）は京都Ⅶ期¹⁾（13～14世紀）のものである。

白磁碗（7）は、口径14.0cm、残存高4.3cmある。口縁部は緩やかに外反する。体部の内外面には青灰白色の釉がかけられ、口縁端部の内外面を釉剥ぎする。

室町時代後半の遺物

土師器皿S（8）は、小片で磨滅が著しいが、口径は約15cm。時期は14～15世紀。溝1Bから出土した。

した。

瓦器羽釜（9）は端部のみの小片である。残存高3.9cm。溝1Bから出土した。

施釉陶器皿（10）は、古瀬戸で、口径10.8cm、器高2.5cmある。ロクロ成形の後、底面は糸切りする。その後、見込み部分は丁寧に磨かれている。内面体部上半から外面口縁部には浅黄色の灰釉をかける。井戸掘形から出土した。

瓦器鉢（11）は、口径26.3cm、残存高8.9cmある。内外面をナデ調整する。磨滅して表面が剥がれて、胎土の土が露出している。東播系である。時期は14～15世紀。溝1Bから出土した。

丸瓦（14）は、残存長25.0cm、高さ12.3cm、残存幅14.5cmある。凹面は布目痕が残る。布目は、約2.5cm間隔の大きなマス目の中に細かな目がある。凹面両端端部の面取りはタテケズリの後ナデ。幅は広く、約3cmある。凸面は縄タタキが一部残るが、タテケズリの後ナデ、玉縁外面はヨコナデする。溝1Bから出土した。

江戸時代の遺物

染付碗（12）は、口径12.2cm、残存高5.9cmある。肥前産で、高台は残存しないが、高台以外の内外面に青灰白色の釉がかけられる。外面は内面の釉より濃色で、口縁上部から内面に外面の濃い釉が流れて落ちる。

焼締陶器挿鉢（13）は、口径37.2cm、器高14.0cmある。ロクロ成形で、口縁端部は三角形につまみ出す。内面には底部と体部に8本一組の櫛目が密に付く。体部外面には指頭痕が、左下がりの方向に多数付く。口縁部には片口が付く。胎土には直径1～2mmの長石・石英の粒子が多く混じる。丹波産。17世紀後半～18世紀のものである。

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年

5. まとめ

今回の調査では、15世紀頃に埋められた溝1Bと、それに先行し13世紀から14世紀頃に機能していた溝1Aを、現在の府道29号線の東側に平行して確認した。府道29号線は、鎌倉時代末期の景観を描いた「山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷地指図」（図11）にいう「朱雀大路」、天龍寺造営以後の14世紀の景観を描いた「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」（図12）にいう「出釈迦大路」を踏襲するものである。両絵図には、道路の東側に水路が描かれており、溝1A・Bは鎌倉時代から室町時代にかけての「朱雀大路」、「出釈迦大路」の東側にあった道路側溝と考えられる。出土遺物の年代から判断すると、鎌倉時代後半の亀山殿期の側溝が溝1A、室町時代の天龍寺期の側溝が溝1Bと思われる。

「山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷地指図」によると、「亀山殿」の周辺には「浄金剛院」「河端殿御所」など多くの建物が建ち並ぶ様子が見える。今回の調査地の位置は、おおよそ「作道」の南、「武家秋庭三郎入道宿所」と「河端殿御所」の境界付近に位置する。

「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」によると、「天龍寺」の周辺には「西禅寺」「金剛院」、「出釈迦大路」の東側には側溝と「在家」の敷地が描かれ、さらに東側は「臨川寺」となる。今回の調査地は、おおよそ「造路」の南側、「臨川寺」の西側の「在家」西端部に位置する。

現在の天龍寺の寺域東端は府道29号線に接している。府道29号線は、亀山殿期の「朱雀大路」、中世天龍寺期の「出釈迦大路」に該当するものであることはすでに見たとおりである。現行の天龍寺の寺域東端が中世の天龍寺の寺域東端を踏襲するものであるとすれば、そこから今回検出した

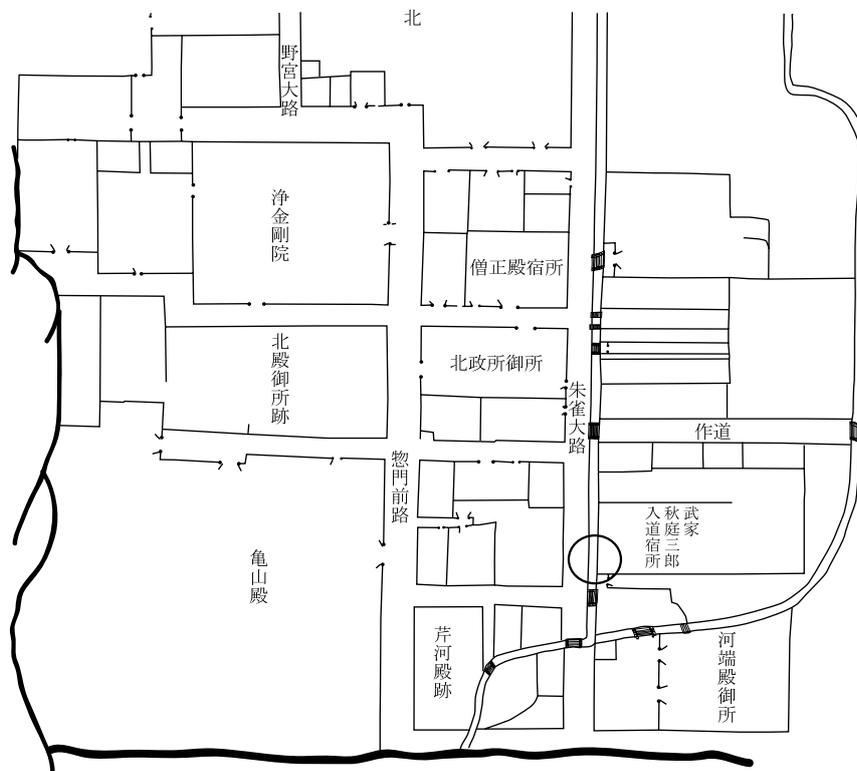


図11 「山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷地指図」（原図を元にトレース、丸印が調査地付近）

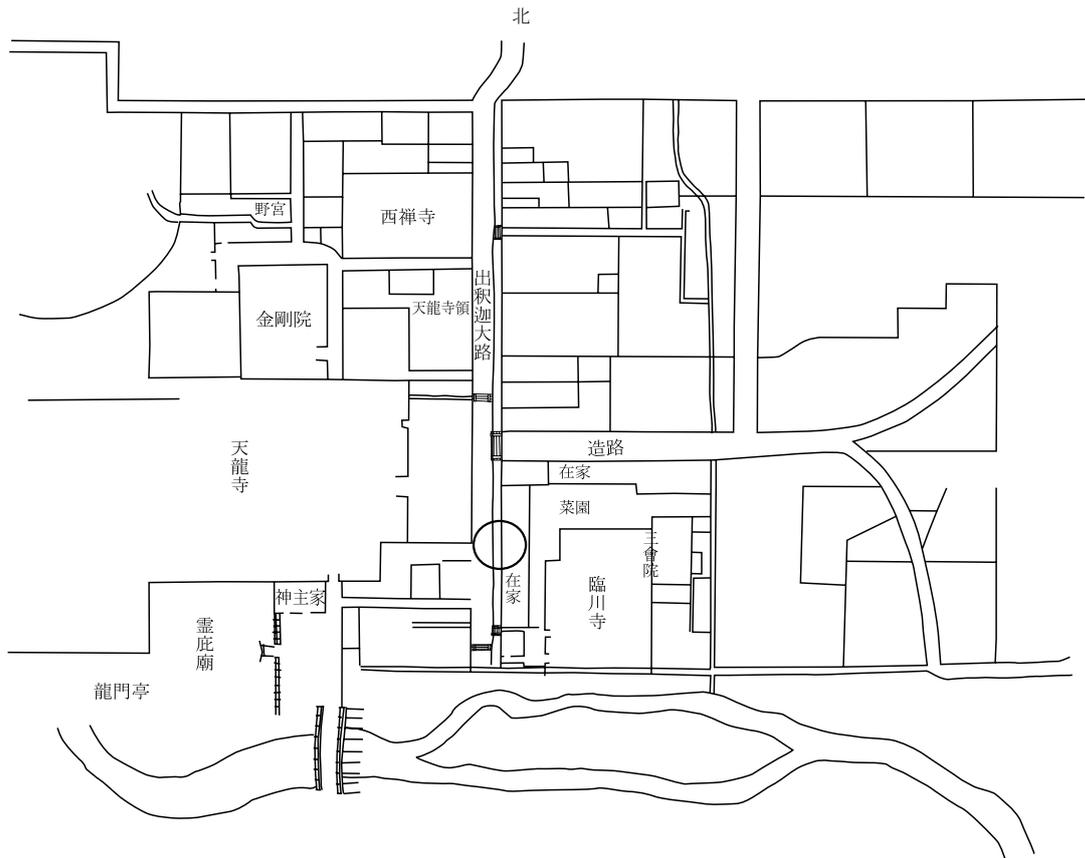


図12 「山城国臨川寺領大井郷界畔絵図」(原図を元にトレース、丸印が調査地付近)

溝1A、溝1Bの東肩までの長さは約28mある。これにより、「朱雀大路」、「出釈迦大路」の幅は、築地心々間でおおよそ10丈(約30m)の規模を推定することが可能になった。

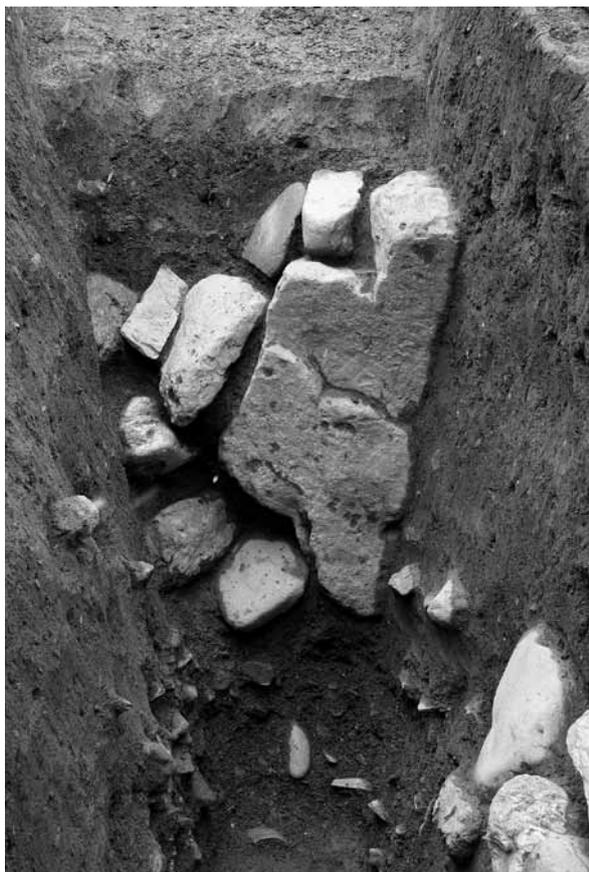
圖 版



1 調査区全景（西から）



2 溝1断割り状況（南東から）



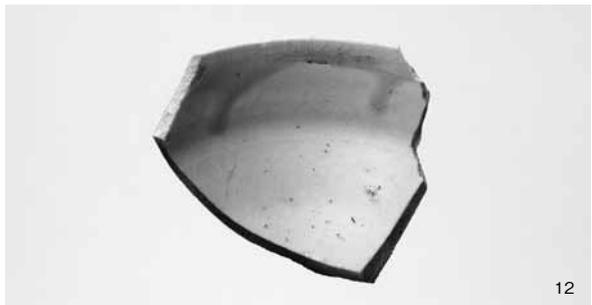
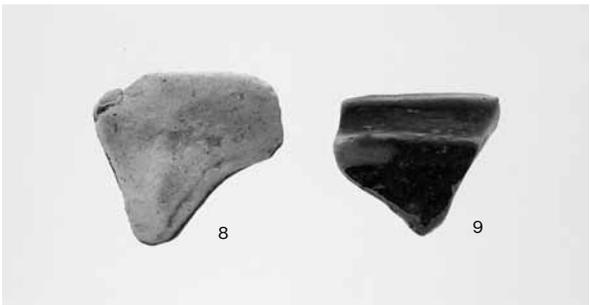
1 溝1B護岸石積み（東から）



2 溝1B護岸石積み上面（南から）



3 溝1養生状況（南東から）



出土遺物

報 告 書 抄 録

| ふりがな | しせき・めいしょう あらしやま | | | | | | | |
|-----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-------|------|--------------------------|--------------------|---------------------------------|-------|---------------------|
| 書名 | 史跡・名勝 嵐山 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 2012-16 | | | | | | | |
| 編著者名 | 尾藤徳行 | | | | | | | |
| 編集機関 | 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 | | | | | | | |
| 所在地 | 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1 | | | | | | | |
| 発行所 | 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦2013年2月28日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | | | | | |
| しせき・めいしょう 史跡・名勝 あらしやま 嵐山 | きょうとしうきょうく 京都市右京区 さがてんりゅうじ 嵯峨天龍寺 すすきのばばちよう 芒ノ馬場町 らない 地内 | 26100 | A809 | 35度 00分 55秒 | 135度 40分 39秒 | 2012年12月 25日～2013 年1月21日 | 43.5㎡ | 駅構内 リニュー アル工事 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | | 特記事項 | | |
| 史跡・名勝 嵐山 | 史跡・ 名勝 | 室町時代 | 溝 | 土師器、瓦器、施釉陶器、焼締陶器、輸入磁器、瓦類 | | 嵯峨野・嵐山地域で、中世の南北大路の朱雀大路東側溝を検出した。 | | |
| | | 江戸時代 | 包含層 | 施釉陶器、焼締陶器、染付、瓦類 | | | | |

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2012-16

史跡・名勝 嵐山

発行日 2013年2月28日

編集発行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961